南極から附中へ

南極観測隊員のつぶやき

令和２年度 愛知教育大学附属岡崎中学校
校長通信　第 26 号　令和２年５月 25 日

〇南極に挑戦した観測船たち

・今回は、南極観測船「初代しらせ」についてお話します。初代とついているのは、現在使用している観測船も「しらせ」と命名されています。「初代しらせ」の船番は写真にもあるように 5002 です。先日、紹介した「ふじ」の船番は 5001 でした。日本の公船の船名は、名所旧跡とか山などから付けられるのが一般的です。観測船「しらせ」も白瀬矗から命名されたわけではなく、白瀬矗の功績から付けられた「白瀬氷河」を基にしています。

＜南極観測船「初代しらせ」　砕氷した航路がわかる＞

・1982 年に就役し、2008 年に退役しています。私は南極への最後の航海に乗船しています。現在は、ウェザーニューズの外郭団体が管理運営をしています。千葉船橋港に係留されていて、常時、見学はできませんが、イベントで時々、内部を公開しています。係留地横にサッポロビール園があるので、焼き肉を食べながら外観を観ることはできます。また、ディズニーランド近くのホテルからも遠方にアラートオレンジの船体を確認することができます。

・「しらせ」は、文部科学省の予算で建造され、自衛隊が運用しています。建造当時は、排水量１万トンを超える初めての船だったそうです。「ふじ」に比べ、砕氷能力が向上し、厚さ 1.5 メートルの氷までなら、連続して進むことができるようになりました。しかしそれ以上の厚さの海氷には、チャージング（「ふじ」の回で説明しました）で進んで行きます。チャージングは夜間に行われることが多く、船内で寝ていると、「ゴ・ゴ・ゴ・ゴ・ゴ～～」と低い音がします。運べる物資量も 1,000 トンとなり、大型の観測機器を運べるようになりました。一方で、昭和基地の使用電力も増え、物資量の半分は燃料となっています。

＜チャージング航行中、海氷に乗り上げている様子＞